

決勝戦詳報



知的書評合戦「第6回ピプリオバトルin八戸」の決勝戦が2日、八戸市のデーリー東北新聞社で開かれた。高校生、大学生、一般の3部門の予選を通過した6人が「チャンプ本」を懸けて繰り広げた発表の様子を紹介する。決勝戦で紹介された6冊は、今月上旬ごろから同市の「はっち」4階ライブラリで展示予定。市立図書館で所蔵している本もある。(取材班)



会場を盛り上げながら司会を務めた
大地球さん(左)と三浦文恵さん

決勝進出の6人紹介

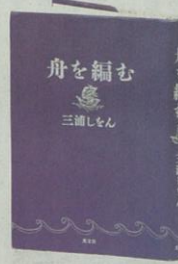
- ▷ 高校生の部
 - 大矢 美咲 (八戸市、八戸聖ウルスラ学院高2年)
 - 天間 凜鳳 (八戸市、八戸聖ウルスラ学院高2年)
 - 大川原菜摘 (岩手県陸前高田市、岩手県立大船渡高1年)
- ▷ 大学生の部
 - 高橋大樹 (八戸市、八戸学院大4年)
- ▷ 一般の部
 - 江尻伸太郎 (むつ市、団体職員)
 - 手嶋久敦 (八戸市、青森県立八戸東高教諭)



たかはし ひろき
高橋 大樹さん(22)

多彩なキャラ、誰かに共感

舟を編む
(三浦しをん著、光文社)



辞書を作っていくという内容の本で、最初は「地味だな」と思ったが、読んでいくうちにどんどん引き込まれた。キャラクター

な人、いそぎだなど思った。この本の良さは、登場人物がたくさんいること、辞書を作る仕事に対して、登場人物たちがもがき苦しむ場面があり、それぞれのキャラクターの遣い分けがはっきりしている。思いつきで相手にならなくても共感できる部分がある。大学生になつてから辞書が一度も触っていません。インターネットの普及で、これからは辞書が使われなくなると思いますが、どんな人が読んでも、きっとこの本は何か気付きをくれるはず。辞書がなくなっても、まだ知らない言葉がある。もったくさんの言葉を知っていたら、普段の何げない会話も面白くなつていくんじゃないかなと読んだ後にも思いました。印象的な言葉がいろいろとめられている作品だが、

【自己評価】伝えることの難さをバトルを通して実感した。他の発表者が話し上手で、自分もこんなふうに発表したいと思った。